



松井前会長を偲ぶ会の模様

3月6日に逝去されました松井逸朗前日身連会長を偲ぶ会が、10月5日(水)13時半より、東京iKPガーデンシティ竹橋で開催され、各界から140人の方が参加されました。

松井逸朗前会長を偲ぶ会 感謝をこめしめやかに



発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部 彦彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
ディアダックビル4階
TEL03-3565-3399(代)
FAX03-3565-3349
http://www.nissinren.or.jp
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

松井逸朗前日身連会長を偲ぶ会は、阿部一彦日身連会長の開式の挨拶のあと、黙祷に続き、故人と30年以上の親交があった自由民主党の野田聖子衆議院議員が献花をされたあと、同じ岐阜市加納の地域に居住し、陰から支えられた多くの出来事に感謝を述べられました。6年前に障害のあるお子さんを出産したときに、「障害があるとわかって産んでくれてありがとう」と滂沱の涙を流されたこと、完成を待ち望んでおられた障害のある人もない人も一緒に楽しめるプールが近々岐阜にできることを披露され、会場は大きな感動に包まれました。次に村木厚子前厚生労働事務次官が、10年前の企画課長時代に支援費が財政難となり松井前会長も含めて新しい制度の勉強会を何度も積み重ねてきたこと、どんなに激しい議論になっても最後には笑って気づかってくれたこと、村木前次官が内閣府に復帰されたとき、涙を浮かべて力強い

握手をしてこられたことをお話されました。久保厚子全国手をつなぐ育成会連合会会長は、全国に組織を持つ団体同士として通じ合うものがあったこと、お父さんのような頼りがいのあるリーダーで、これからも引つ張っていただきたかったと話され、藤井克徳特定非営利活動法人日本障害者協議会代表は、障害のある人には誰にでも丁寧で、障害者権利条約の推進には特に強く意欲を燃やされていたと振り返られました。映像紹介では、お若いころの秘蔵写真やお孫さんとのほほえましいお写真が紹介されました。メッセージ披露では、塩崎恭久厚生労働大臣をはじめ、多くの方

9月13日、東京都障害者福祉会館(東京都港区)において、第5回正副会長会が開催されました。会議では、議案1として、松井逸朗前会長を偲ぶ会について、検討を行ったほか、議案2として、第4回正副会長会(8月19日開催)に引き続き、社会福祉法の一部改正に伴う定款変更事項等について検討を行いました。前回の会議で検討した定款案をもとに、厚労省と協議した内容に関して報告が行われました。また今後、正副会長会の検討事項を踏まえ、厚労省と更に協議を進めて



開式のあいさつをする阿部会長

からの追悼のメッセージが紹介されました。後半には、岡田和隆日身連副会長が会長就任後すぐに有言実行で改革に取り組み、信望が厚い会長と語られ、岡本敏美岐阜県身体障害者福祉協会会長は、松井前会長の遺志を継いで障害者福祉の充実と向上のために力を合わせていくと力強く述べられ、元郵政大臣の八代英太日身連顧問は似た境遇に生まれた共通点を語られ、「逝く人を惜しみて今日の涙雨」とよまれました。最後に長男の松井文徳さんが「何一つ悔いのない人生でした」と謝辞を述べられ、参加者全員が献花をして終了しました。しめやかな中にもあたたかい気持ちがあふれる偲ぶ会となりました。

定款変更 年末を目途に検討すめる 第5回正副会長会

いきます。なお、今回の制度改訂に基づく定款の変更については、評議員・役員を選任のあり方や任期・権限等、重要な変更が多く含まれています。日身連は定款の修正内容について、各加盟団体と情報共有する必要性から、修正案(未定稿)を情報提供しているところです。加えて、定款変更にかかる今後のスケジュールは、12月1日の定例評議員会を経て、12月中旬に臨時評議員会を開催し、承認を得た後、厚労省に申請する予定です。